第五号

昭和五十四年七月二十日発行

はまゆうと桜貝と海光る

わが故里

鵠沼

鵠沼を語る会

不安の時代を背景とする

芥川文学と鵠沼

芥川竜之介大正三年一月鵠沼の山本家の別荘に遊ぶ、とある。

一九一四年竜之介二十二才の年であった。

前年第一高等学校を卒業、その年七月に帝国大学英文科に入学している。

一高時代の同級に菊地寛、久米正雄、松岡譲、土屋文明、恒藤恭、山本有三等一級上に近衛秀麿、豊島与志雄等がいて日本文学史において画期的時代となる。

当時、竜之介は府下豊多摩郡内藤新宿二丁目七十一番地に住むが（現在の新宿二丁目、明治三十八年末で戸数二、三七五戸、人口一〇、八一七人であった。）大正三年十月末府下北豊島郡滝野川町字田端四三五番地（現在の北区田端町）に新築、移転。

こゝが、竜之介生涯の地となった。この年十二月「羅生門」を発表、大正五年二十四才、第四次「新思潮」創刊号に「鼻」を発表、夏目漱石の賞賛を受け文壇に登場する。東大在学中であった。七月東大卒業横須賀の海軍機関学校嘱託教官に就任、鎌倉市和田塚に住む。

この頃、久米正雄との友情が深いと伝えられている。

久米正雄は、夏目漱石の娘を松岡 譲と争って破れ、その破恋を書いた「破船」で文壇に登場、恋を失って名声を得たと騒がれた。
松岡 譲は静雄、国男 の三兄弟として有名であり松岡静雄は海軍大佐として大正十二年関東大震災の時久邇宮別邸で宮様が圧死した時若宮の遺体を引取りに軍艦を鵠沼沖に廻航している。
久邇宮邸は現在の鵠沼海岸二丁目高橋邸である。
松岡静雄は退役後鵠沼に居を移し南方経営の構想を練ったと言われているがその居宅は桃畠の中にあり青年により千客万来の感があったと、娘の野口喜久子女史が、その随筆「砂のいろ」の中で書かれている。
国男は柳田国男として国文学者としてあまりにも有名である。
竜之介もしばしば鵠沼を訪れたのではなかろうか。
その年、夏目漱石死去、芥川文学は巨星の墜ちる光芒の中で輝いたのである。
大正十一年秋に菊地寛が創刊した文芸春秋に「侏儒の言葉」を発表この頃から、芥川竜之介の精神危機を深めた一因ともなったプロレタリア文学に対し強い姿勢を示し、「プロレタリア文学の可否」の論文を発表している。共産党とプロレタリア文学の台頭は、日本全体に深刻な危機感を与えた。
六月九日、有島武郎が波多野秋子と軽井沢の別荘で情死七月七日に死体が発見されセンセーショナルな事件となった。

この有島武郎の死はまさに崩壊しつゝあったプルジァジィの象徴とも言えるのではなかろうか、この事件が竜之介に与えた衝撃は大きい。大正十三年竜之介は感冒から神経性胃アトニー、痔疾、神経衰弱などで健康次第に衰え、

大正十四年には出版に関連した金銭問題で苦しんでいる。大正十五年二月二十二日より五月二十五日まで妻と三男也寸志をともなって鵠沼東屋旅館に静養している。

この東屋旅館での生活は芥川竜之介にとって肉体的、精神的の安静を求めたにもかかわらず来客多く、また大腸カタル、痔、不眠症、精神異常に悩まされていた。

この当時の生活はまさに人間としては末期的の症状であった事は「鵠沼を語る会」の富士山先生も語っておられた。

にもかかわらず、創作活動は旺盛であり、「点鬼簿」を書きあげている。七月中旬、東屋旅館のすぐ近くに、玄関とも三部屋の家（イの四号）を借り妻、也寸志との三人で西洋皿一枚づゝの生活を送ったとある。

昭和二年、「河童」を発表、この年四月、義兄の家が全焼、多額の保険

金が、その直前にかけられていたため放火の嫌疑により義兄は鉄道自殺を行ないその高利の借金の後始末に竜之介は奔走している。
四月、五月に妻幼友達平松満寿子と帝国ホテルで自殺を計画、四月十六日に菊地寛宛に遺書を書いている。
しかし、小説を書き、シナリオを書き、仙台、盛岡、函館、札幌、旭川、小樽と講演をして廻り青森公会堂で「夏目漱石」新潟高等学校で「ボオの一面」と題する最後の講演を行なっている。
新潟高等学校長は、芥川竜之介が在籍した府立三中の当時の校長八田三喜　である。
五月三十日星ヶ岡茶寮にて菊地寛ともども文芸春秋社側として座談会「柳田国男、尾佐竹猛」に出席している。
六月宇野浩二が精神に変調をきたしたためまたまた大きな衝撃を受けている。
しかし、「歯車」を発表、「湖南の扇」を刊行六月二十日「或阿保の一生」を脱稿、七月十日「西方の人」を脱稿、およそ常人とは思われない仕事を続けた。これはおそらく生命の灯の消えゆく前の一瞬の輝きであると共に自己の文学を完成せんとする必死の努力ではなかっただらうか、不安の肉体と人生の精神的泥濘の中から、もがき

つゝ真実を求めた大正知識層の旗手として悲愴の姿がみられる。

七月二十三日「続西方の人」を書きあげ、二十四日午前一時頃伯母に下島 勲宛の短冊

「自〓（口扁に胡）、水洟や鼻の先だけ暮れ残る」を渡し、七月二十四日未明、田端の自宅において自殺をした。「蜘蛛の糸」を書いた芥川竜之介の枕元には聖書が置かれていた。

遺書は妻文、菊地 寛伯母フキ、葛巻義敏（鵠沼海岸在住）他、その他久米正雄にあてた「或旧友に送る手記」があった。三十五才であった。

七月二十七日谷中斎場で葬儀、先輩総代 泉鏡花、友人総代菊地寛、後輩総代小島政二郎、文芸家協会代表 里見弴で弔辞がよまれ、日暮里火葬場で骨あげ染井の慈眼寺墓地に埋葬された。自殺した七月二十四日は、今日河童忌と知られ、昭和十年以後菊地寛により芥川賞が設定された。

芥川文学は、明治と昭和の間にはさまれた大正時代とゆう極めて不安な時代の精神的象徴とされている。

その芥川竜之介が、最后の一年間を鵠沼海岸で送った意義は大

きい。鵠沼は当時別荘地として政界官界経済界、高級軍人の出入リが多く大正政治の裏面史として多くのエピソードを残している。しかし、鵠沼があくまで時代の表面に出られなかった事は、芥川竜之介の静養生活にみられるが如く暗い一面をとり去る事ができなかったのである。

この湘南のあくまで明るく美しく風光は芥川にとってたんなる憧れの地にすぎず永住の地とならなかったところに時代の精神を蝕んでいた暗く深い傷を見出す事ができる。

芥川の不安の文学はやがて昭和に入り太宰治に継承される。太宰治は芥川竜之介が自殺した昭和二年（一九二七年）十八才であった。四月青森中学四年終了弘前高等学校文科甲類（英語）に入学した秀才であったが七月傾倒していた芥川竜之介の死に激しい衝撃を受け生活に変化を生じたとある。

やがて太宰治も湘南の海辺でしばしば自殺を計る。昭和二十三年玉川上水で山崎富栄と情死したのは三十九才であった。太宰文学と鵠沼に関しては次回にゆずりたい。

昭和五十四年三月七日鵠沼公民館において「鵠沼を語る会講座」より

リーダー　伊藤　昌

鵠沼と白樺派

白樺　一九一〇年（明治四十三年）四月創刊－一九二三年（大正十三年）廃刊。武者小路実篤、志賀直哉、里見　弴、児島喜久雄、柳宗悦、有島武郎、有島生馬等主として学習院出身の文学青年によって組織された同人雑誌で当時の自然主義文学に満足せず、トルストイの影響を受けて人道主義または新理想主義を提唱し、大正時代の文芸思潮に最も強い影響を与えた。また、海外美術の紹介、とくに印象派の絵画の移植に大きな功績を残した。

明治文学（第一期）

長い間の封建体制から解放され自由、合理主義精神を求める時代の声にこたえ、福沢諭吉、中村正直、中江兆民、新島　譲らが西洋文化、思想を伝え近代的な人間の生き方ものゝ考え方を示す努力を払った。諭吉の「学問ノススメ」（一八七二年）。文学の世界では、いまだに前時代を引きつぐ戯作文学が行なわれたが、文学の自律性と写実主義を唱えた坪内逍遥の「小説神髄」

（一八八五年）が出たことは、日本の近代文学にとって重要な契機となった。

（第二期）

写実文学を幹としてその上に種々の文学、文学流派が活躍した。まず言文一致の運動が学者や作家の努力の末実った。

山田美妙、二葉亭四迷、尾崎紅葉らによって新しい口語体が実現された。特に四迷の浮雲（一八八七―八九年）は言文一致の文体を実践しただけでなく「小説神髄」の理論を実践化した。

二十年代は紅露時代と言われ紅葉は硯友社により文壇の中心となり、幸田露伴は東洋的芸術至上主義を唱えた。

森鴎外は訳詩集「於母影」（一八八九年）を出して詩歌革新運動を行い、一方「文学界」による北村透谷、島崎藤村らの青年らは、若々しい近代的の自我の叫びをあげなかでも透谷は古い封建思想と功利主義の文学とに激しい戦を挑み、人生の第一義の道として文学を考えた点に大きな意義があった。

透谷の詩を受けついで藤村は.「若菜集」（一八九七）により近代叙情詩を確立した。「新体詩抄」から数えて十五年後であった。

やがて「文学界」による人間感情の解放は「明星」に受けつがれ与謝野晶子も個人、自由、官能を主張とするロマン主義運動を展開した。それは近代的自我の覚醒と近代短歌の確立とゆう二点に大きな意義が認められた。

吉井　勇、高村光太郎、北原白秋、石川啄木が「明星」の運動を引継いだ。

正岡子規は（一九八二年）明治二五年ごろから俳句の革新運動をはじめ「写生」の方法を唱えて同じ方法を短歌に及ぼした。

「歌よみに与うる書」一八九八年では古今、新古今を否定し、近代短歌の理論を打出した。俳句は高浜虚子を中心として「ホトトギス」に短歌は伊藤左千夫、長塚節、島木赤彦、斉藤茂吉らの「アララギ」に引きつがれた。日清戦争後社会の矛盾はようやく深まりさまざまな社会問題が発生したが、小説界においては、泉鏡花の外科室（九五）夜行巡査（九五）川上眉山の書記官（九五）広津柳浪の変目伝（九五）の観念小説、深刻小説が出た。鏡花は「高野聖」（一九〇〇年）の如くの神秘的幻想的な文学を展開した。高山樗牛の目まぐるしい思想の変遷は新旧精神の揺れ動いたこの時期を象徴している。

三〇年代には近代的な労働運動、社会主義運動がみられるように
なり木下尚江の「火の柱」（〇四年）などの社会主義文学の影響を受け
小杉天外の「初姿」（一九〇〇）や永井苛風の「地獄の花」などの小説が
書かれた。国木田独歩は詩から散文へと移行する時期の代表的
作家でありその作風は初期のロマン的作風から後期の自然主義的
作品に移っていく。

（第三期）

一九〇六年（明治三九年）の藤村の「破戒」、翌年の田山花袋の「蒲団」は
文学に対する遊戯的な態度を捨て、近代的な散文精神を確
立した。自然主義文学の隆盛はこうしてやって来る。
徳田秋声、政宗白鳥、岩野泡鳴らが相ついで作品を発表し現実暴
露、無解決の人生を描いた。
しかし一方では、反自然主義文学も盛になった。森　鴎外、夏目
漱石はその双壁である。「ヰタセクリアス」（〇九）青年（一〇）雁（一一）を発表して
自然主義の素朴な文学観、人生観に対立した。
漱石は始め写生文により余裕派の文学として称されたが近代的自我の
問題を追求し、道義的精神を強調した。

その他人生の暗く醜い面ばかり強調した自然主義に反対して唯美主義、官能的な文学を目指したのは「スバル」派の人々で特に谷崎潤一郎、永井荷風の活躍が目ざましく、耽美派、新ローマン派ともよばれた。　そして「白樺」派文学が登場する。

大正文学

大正文学の特色は、近代的リアリズムの日本的開化、或は市民的自我意識の確立である。

自然主義がその限界をみせこれに対抗したいわゆる反自然主義運動が起こり２つの流派が登場する。

その一つは「美」を目的とする耽美主義であり永井荷風、谷崎潤一郎を頂点として泉　鏡花、佐藤春夫、久保田万太郎、鈴木三重吉等でありいま一つは理想主義、人道主義の文学運動であり日露戦争から第一次大戦までの新しい有産階級の気分、理想を持っていた.そして近代個人主義確立とゆう大きな意味があった。

一九二一年（大正十年）頃になると、第一次世界大戦の経済恐慌、社会不安などの暗い影響を受け、プロレタリヤ文学運動がようやく台頭し、二一年に（種まく人）二四年に「文芸戦線」が創刊され、文学

における政治の優位とゆう昭和文学えと移行する。
こうした中で大正文学の代表的人物である芥川竜之介の芸術と
自殺に終った短い生涯は近代文学の運命を象徴しているといわれ
個人主義、芸術至上主義の敗北であった。

備考

自然主義はいぜんとして活動を続け大正末期の「私小説」「心境小説」として残る。
耽美派　北原白秋、木下杢太郎
夏目漱石、森鴎外―心（一九一四年）道草（一九一五）明暗（一九一六）
興津弥五右衛門の遺書（一九一二）歴史小説
新現実主義
―新思潮派（赤門派）芥川竜之介、久米正雄、菊
地寛、豊島与志雄、山本有三、藤森成吉。
―早稲田派　広津和郎、谷崎精二、吉田弦二郎、
宇野浩二、葛西善蔵
―三田派　水上滝太郎、小島政二郎
その他、室生犀星　滝井孝作、森田草平、野上弥生子、萩原朔太郎
斉藤茂吉、島木赤彦、土屋文明

白樺派◎武者小路実篤（一八八五年生）

小説家・戯曲家、東京通町に生れ学習院を出て東大社会学科を中退。トルストイの影響を強く受け、雑誌「白樺」を創刊（一九一〇）お目出たき人（一九一一）　彼が三十才の時（一四）幸福者（一九）戯曲二十八才の耶蘇（一四）その妹（一五）など素朴な人道主義を主張、大正初期の文壇に新風を吹き込んだ。

一九一八（大正七年）新しき村を九州日向に、後に埼玉県に東の「新しき村」を開き理想主義社会を実現しようと試みた。

一九三五年以後は（昭和十年）東西の美術に深い関心を持ち戦后は特に絵の世界に没頭している。

その作風は人生を肯定し人間を信じて疑わない徹底した理想主義で「自然の意志」「無心」を重視する個性尊重主義であり、明るくのびのびとしたさわやかさに特色がある。

他に小説「友情」「或る男」「幸福な家族」「真理先生」戯曲「人間万歳」「愛欲」がある。　「現、鵠沼松が岡に居住」

◎有島武郎（一八七二―一九二三年）

学習院から札幌農学校に入学、内村鑑三の指導によりキリスト

教徒となる。　一九〇三年（明治三十六年）渡米して経済学歴史学を学び
その間信仰を失って社会主義思想と、ホイットマン、エスマン等の文学
に親しんだ。さらにヨーロッパに遊学し、ロンドンで無政府主義者ク
ロポトキンと交った。この思想の変遷については、評論「惜しみなく
愛は奪う」（一九一七）に詳細に語られている。
白樺の同人として、一九一一年、「或る女」カインの末裔（一九一七）「生れ出
ずる悩み」
「迷路」「小さき者え」を発表　一九一九年に「或る女」を完成、西欧自然主
義風リアリズム作家の地位を確立した。
しかし、一九二一年無産主義（階級）の文学などを書き自分の属する階
級とその階級を否定しようとする社会主義思想の間に立って深刻に
悩み北海道の広大な農場を小作人に開放したがついにその悩み
を解決できず自殺した。大正十一年六月九日波多野秋子との心中で
あった。　弟に有島生馬、里見　弴、息子に俳優の森雅之がいる。
◎里見　弴（一八八八年生）（横浜生れ）
学習院を経て東大英文科中退「お民さん」（一九一〇年）「河豚」などを発表し
た。
白樺派に珍しく現実主義的な傾向があり、はなやかな技巧と耽美
主義的な　面もある。
「善心悪心」（一九一六年）は白樺派的倫理観のほか「まごころ哲学的」なもの
が表
れている。後年白樺派を離れ吉井勇、久米正雄らと雑誌「人間」を
創刊した。「多情仏心」大道無門」「父親」等の作品あり。

岸田劉生（一八九一―一九二九）

大正時代の洋画家、東京生れ
黒田清輝らの白馬会で絵を学び、若くして文展に入
選して一家を成した。一九一二年（大正二年）万鉄五郎ら
とフェーザン会を起こし、又一四年（大正四年）には草土社を
創立した。非常に研究家でまたその制作態度はきび
しく将来を嘱望されたが業半ばにして倒れた。
作品は、北欧ふうの細密な写実主義に東洋的な画風が
加味され、暗く深い色調の絵が多い。「麗子像」が有名
である。

彼は一九一七年（大正六年）二月に神奈川県の鵠沼に居を移す　それから一九二三年（大正十四年）の九月、関東大震災で家が半壊し、そこを離れるまでの時期がいわゆる「鵠沼時代」と呼ばれ、彼が精神的にもまた絵画的にも最も充実した時期であり、娘麗子や村娘於松の数多くの作品が生れた。その間、劉生の芸術が武者小路等の白樺派に与えた影響は大きい

昭和五十一年七月三十一日にこの第一号を創刊してから丸三年の月日が流れた。歩みは遅々としているが鵠沼の文化創造に着実に進みつゝある。ただ単に地理や、厂史や、文学を語るのみでなく、その時代、時代を創りあげてきた時代的背景や、人脈をたどっていくと、意外な未知なるものにつき当る事がある。　その感動や情熱がやはり新しい創造にむかって力と勇気を与えてくれる。

日本の文学に一時代を築いた芥川竜之介や、白樺派や、岸田劉生等の心にこの鵠沼の風土に深い影響を及ぼしている事を知り、この第五号を全員の方々にお送りして講座を開く事を嬉しく思っております。

今年のこれからの計画は次の如くとなっております。

一・鵠沼と白樺派　七月二十日
二・鵠沼と震災　九月四日
三・鵠沼の史蹟探索　十月中二回
四・鵠沼の文化展望　十一月

鵠沼碑文集（一）

鵠沼松ヶ岡五ノ十一ノ十

伊藤節堂

一・名称　堀川改修碑

二・所在　鵠沼海岸四ノ二一ノ八引地川堤上

三・建立　昭和七・八・二三

四・碑面

相模国高座郡鵠沼邑有川流、称堀川、其西南之田呼藤原、天明六年、丙午秋七月十有七日、水破堤防而田地悉荒矣、予祖父誘励邑人、新築堤防、享和三年辛亥夏五月有十九日、又有水患而破堤二処、厳父継祖父之志、独不顧費用、隣邑之士而、又新築堤防百余歩、以為持久之計建水神祠、永全是祈、文化五年歳在戊辰秋八月望、浅場太郎左衛門建之

谿南時薦書

（碑陰）　昭和七年八月二十三日　浅場虎吉　再建之

石工伊藤與仍

五．備考　高さ一〇四糎、巾七四糎　台座二〇糎

天明六年　一七八六年

享和三年　一八〇三年

文化五年　一八〇八年

昭和七年　一九三二年

（二）

一．名称　引地川改修紀功碑

二．所在　鵠沼海岸二ノ一七引地川川畔

三．建立　昭和九年二月

四．碑面

（篆額）紀功碑

引地川は水路迂余曲折シテ、流水ノ疎通良好ナラス、一朝、豪雨ニ会ヘハ、堤防決壊シテ、濁水氾濫シ、年々農作物ヲ害ス　又屢々鵠沼別荘地ヲ浸シテ住民ヲ苦ム、乃チ引地川ノ改修ハ、藤沢町多年ノ宿題ナリシモ、町財政ハ、之カ工賃ノ負担ニ堪ヘス、已ムヲ得ス、年々数千円ヲ投シテ、応急修繕ヲ反覆シ、一時ノ苟安ヲ図レリ、偶々、時局匡救土木事業ノ実施セラルヽニ当リ、町理事者ハ極力県当局ニ対シ、引地川ノ改修を懇請シ、幸ニ県当局ノ納ルヽ所トナリ、昭和七年度ニ於テ金参萬万弐阡円、翌八年度ニ於テ金参萬六千円配当セラレ、昭和九年二月引地川下流、延長約壱千間ノ改修ヲ完了セリ、是ニ於テカ、多年の水害ハ除去セラレ、且下流一帯の風致ヲ美化シ、別荘住宅地シテノ真価ヲ増ハ㊞大セリ、由来本工事ハ、新川敷ノ収得ニ、工事ノ実施県当局ノ適ニ多大ノ困難ヲ伴ヒシモ、遂ニ所期ノ目的ヲ貫徹切ナル指導ト㊞シ、最良ノ成果ヲ収メ得タル所以ノモトハ㊞、町技師ノ真

苟安

まにあわせ

医

たゞす

執ナル努力ニ頼ルト雖、亦以テ鵠沼耕地整理組合員ノ理解ト、工事　請負人ノ誠意トニ由ルニアラスンハ何ソ能ク此ノ如クナラムヤ、茲ニ碑ヲ建テヽ其功績ヲ記シ長へニ後昆ニ伝ウ。

昭和九年二月吉辰

藤沢町長従四位勲三等功五級　一木與十郎　撰

県立湘南中学校教授嘱託　佐野梅吉　書

五・備考　高サ一八五糎　巾一〇五糎

（三）

一・名称　中岡耕地整理紀功碑

二・所在　鵠沼松ヶ岡四ノ一九ノ五（一木通小田急踏切）

三・建立　昭和八年十月

四・碑面　（篆額）紀　功　碑

（碑文）中岡耕地整理紀功碑

男爵　野崎貞義義篆額

天時不如地利、地利不如人和、相州中岡之地、一丈五尺
之本通通南北、数条之支路分東西、耕地井然、邸宅
安定、昭和七年七月起工、翌年八月竣工、耕地整
理碑金参阡六百円、水路工事費金弐千弐百円、歳
余而面目一新、六町余歩之耕地、適蔬菜栽培
免豪雨暴漲、耕地整理関係当局之指導方針、組
合員之融和協調、諸役員之奮励努力、町理事
之援助達成、非得其宜、則何能如、斯乎、所謂
斯天時地利人和収得最良成果、嗚呼、聖世
恩沢年豊人楽良有以也、茲陳梗概、建紀

功碑、長伝後昆

昭和八年十月吉辰

中岡耕地整理組合長　一木與十郎撰

帝都賜菊園学会長　藤野静輝書

五・備考　高サ一八五糎　巾一〇五糎さ

現在私達が住んでいる鵠沼の環境も必しも一朝一夕ではできあがったものではありません。幾多の先人達が人力と全力を投じ力を合せて環境づくりを行って来たのです。

環境破壊が叫ばれている現在、私達はこの先人達の努力に対してでも美しい鵠沼を守らなければなりません。このシリーズは伊藤節堂会員がその願いをこめて鵠沼の碑文集を綴ったものです。

自分の足と目で確かめ厂史の尊さを伝えてくれています。この碑とともに後世に鵠沼の環境を伝えていきましょう。

藤沢市鵠沼海岸二丁目一〇番三四号
藤沢市立鵠沼公民館内
鵠沼を語る会
電話　36　七四三一